

長寿カルタづくり～百歳からの贈り物～

取組に至る背景・事業の目的

宅幼老所まめ大福の日常の中で交わされる会話には、生活の知恵や何気なくも尊い言葉がたくさんある。そんな心に留まった言葉を職員がその都度ノートに記し、書き溜めた。昔の苦労も笑顔で話し、知恵を惜しみなく与えてくれる利用者さんたち。日々示していただいている“年を重ねることの素晴らしさ”を、より多くの人と共有できないかと考え、広い世代で楽しめるカルタを作成しようと考えた。

事業内容

高齢者が持つ生活の知恵や、尊い日常の一言をカルタにまとめ、幅広い世代が参加できるカルタ大会を開催し、世代間交流を図った。

事業効果

- ・カルタは、新聞等（信濃毎日新聞、中日新聞、全国信用金庫協会広報誌）で紹介されたこともあり、昨年末は生産が追いつかない状態であった。印刷を2回追加した（合計1,500部）
- ・県内外、遠くは外国からも注文があり、多くの人の手に渡り親しまれている。
- ・購入された方々からお手紙が届くなど、カルタでつながる交流になった。
- ・大鹿小の児童に招待状を出し一緒にカルタとりをするなど、世代間交流が図られた。
- ・6年生（昨年度）は自分たちでも大鹿名所カルタを作った。
- ・大鹿歌舞伎、産業文化祭など村内の行事などでカルタを販売した。その際には、カルタの元になる言葉をくれた103歳のおばあちゃんが店頭でひとりひとり声をかけながら手売りした。
- ・今年3月に開催されたカルタ大会では、村内外から多くの参加者があり（100名）、また景品を村内の店や旅館などから募り地域振興につながった。
- ・袋は村の授産所が縫製。袋にカルタを詰め、紫の紐を結ぶ作業は「仕事があって嬉しい」と、まめ大福に通う利用者さん達が心を込めて作業してくれた。



【長寿カルタ】



【カルタ大会の様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・書き溜めた言葉を五十音にあてはめ、カルタ用の言葉として語呂がよくなるよう工夫した。
- ・方言や昔ながらの言い回しに対する補足説明を裏面に印刷した。
- ・抽象的な言葉もあり、文字に合った絵を描くのに苦労した。
- ・カルタらしい絵柄を心がけ、全体的に親しみやすい明るい色で仕上げた。
- ・カルタを入れるものを、一般的な箱ではなく『知恵袋』をイメージし、袋とした。
- ・その際、不織布に印刷するのに色がきれいにせず苦労した。
- ・予算の中で品質（札の質、厚さなど）にこだわりながら、より良いものを作ろうと工夫した。
- ・袋の底に原材料名、消費期限、保存方法等、工夫しておもしろおかしく記し、親しみを持たせた。
- ・カルタを元にシール（文字札・絵札）を作成し、販売。売り上げは宅幼老所の活動に充当した。
- ・カルタ大会を、冬期の村の行事の定番にしていきたい。

【選定のポイント】

高齢者が持つ生活の知恵など大切なものを後世に残すとともに、継続的にカルタ大会を開催することで、世代間交流が図られ、高齢者への思いやりの心が醸成されてきている。

また、各種イベントでカルタを積極的にPRし、元気な大鹿村を発信している点も評価できる。

団体名	NPO法人あんじゃネット大鹿（大鹿村）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-39-2218	事業費	644,000円
	anjanet@osk.janis.or.jp	支援金額	584,000円